

# いのちの食卓スクール ― 小田原の一次産業から、生きるを学ぶ

【事業概要書】 消費者と魅力的な農林水産現場を繋ぎ、小田原の持続可能な関係人口を育む全6回の実践型体験スクール

## △ 背景と私たちが解決したい課題

### 小田原の一次産業は「宝庫」

森里川海。小田原には、多様で豊かな生命の現場がすぐそばに存在しています。

農業 漁業 林業 狩猟

### 若者と一次産業が「乖離」している現実

多くの若者はお店に並ぶ食物をただ「消費（食べるだけ）」するにとどまり、地域の過疎化や後継者不足が進むリアルな生産現場を知る手段、関わる入口が閉ざされています。

【これまで】  
消費するだけの「消費者」としての若者

↓ 地域との対話・接続

【これから】  
能動的に現場を応援・持続に関わる「応援者」へ

## 🏠 スクール概要 & 全6回の全体像

実施期間

2026年9月～2027年2月

募集対象・定員

市内外問わず15名程度

- 1 漁業を学ぶ (9月)  
釣りや海の幸について知る。
- 2 農業を学ぶ (10月)  
農業体験を通じて「いただきますの始まり」を知る。
- 3 狩猟を学ぶ (11月)  
命をいただくことについて、森の循環を知る。
- 4 ジビエを学ぶ (12月)  
鳥獣被害のリアル。「ジビエ」について知る。
- 5 加工を学ぶ (1月)  
作ったものをどう保存するか、届けるかを知る。
- 6 商品企画を学ぶ (2月)  
食べるものがどのように商品化されるかを知る。

## 🌱 期待される成果と将来の継続モデル

### 若者への効果: 地域への愛着・つながり

ただ楽しいだけの体験で終わらず、小田原が「何度も帰って来たい第二の故郷」となる愛着をつくります

### 持続可能なモデル: 終了後のコミュニティ展開

スクール終了後は修了生による「農作業ボランティア」「地域イベントへの協働参画」を組織化。生産者を支援続けるネットワークを構築。



15名

年間受講者数

100名

延べ関係人口

90%

目標満足度

「食べる人」と「つくる人」をつなぐ。いのちの食卓スクール